

【文学学術院】

早稲田大学履歴書【記入例】

No. 1

※年号はすべて西暦でご記入ください

(2017年10月 1日現在)

※本学規程により、遠方からの通勤費は、一部しか支給されない場合があります。

コメント [11]: 手書きの場合は、黒色のインクのボールペン等で記入してください。鉛筆書きは不可です。

フリガナ	オオクボ	タロウ	性別	翻訳者氏名	写真貼付 ※画像の貼付可 4 cm×3 cm
英字氏名	Okubo	Taro	男		
氏名	姓 大久保	名 太郎		〒 03(3203)4141 携帯〒 090(0000)0000	
生年月日	1975年1月1日 42歳	国籍	日本		
現住所	〒169-0051 新宿区西早稲田1-1-1		在留資格		資格外活動許可 (有・無)
e-mail	taro@xxxxx.jp		在留期限	年 月 日	

学歴 [高等学校入学以降を記入し、(入学・編入学)(卒業・修了・退学)等の区分を選択してください]

1990年4月 1993年3月	〇〇県立△△高等学校	高等学校	(入学) (卒業)
1994年4月 1998年3月	早稲田 大学 〇〇 学部	〇〇 学科 専修	(入学)・編入学 (卒業)・退学
年 月			入学・編入学
年 月			卒業・修了・退学
年 月			入学・編入学
年 月			卒業・修了・退学
1998年4月 2000年3月	修士課程に該当する学歴 (新制大学院修士課程・前期課程) 早稲田 大学 〇〇 研究科 〇〇 専攻		(入学)・編入学 (修了)・退学
2000年4月 2003年3月	博士後期課程に該当する学歴 (博士課程・後期課程) 早稲田 大学 〇〇 研究科 〇〇 専攻		(入学)・編入学 (修了)退学(中途・研究指導終了・その他) 在学中
博士学位	取得学位名 (課程・論文) 博士 (工学)	受領大学 早稲田大学	受領年月日 2003年3月15日

コメント [12]: 高等学校入学・卒業の学歴もご記入ください。

コメント [13]: 複数の修士課程の歴がある場合は、適宜行を追加のうえ記入してください。

コメント [14]: 課程・論文のいずれかに○をつけてください。

コメント [15]: 受領時期によって学位の表記が異なります。詳細は「記入要領」2ページを参照してください。

コメント [16]: 欄が不足する場合は、適宜行を追加のうえ記入してください。

職歴 [職歴異動の場合は入社・退社、および身分・資格等を記入してください]

※2013年4月1日以降に早稲田大学での職歴がある場合は、TA・研究補助者等のアルバイトでも必ずご記入ください。
※終了 (退職) 予定の日付もご記入ください。

開始 (就職) 年月	現在に至る or 2003年4月 終了 (退職) (予定) 年月 2007年3月	〇〇〇〇製作所 〇研究所研究員	常勤	
2005年4月	2007年3月	△△△工業大学 〇学部 非常勤講師	非常勤	
2008年9月	現在に至る	早稲田大学 〇学部 非常勤講師	非常勤	
2007年4月	2010年3月	〇〇〇〇製作所 〇研究所主任研究員	常勤	
2010年4月	2014年3月	□□□大学〇学部 専任講師	常勤	
現職	2014年4月	2018年3月	□□□大学〇学部 准教授	常勤

専門分野 [別紙より選択]	電子・電気材料工学
研究分野 [詳しく記入]	電子工学、技術ジャーナリズム、技術経営
使用言語	母語: 日本語 講義実施可能言語: 日本語、英語

教育研究業績 I : 研究活動

「記入要領」を参照のうえ、以下の項目順に記載してください。
※該当する実績がない項目は「該当なし」と記載してください。
※すべての項目が「該当なし」の場合でも、必ず提出してください。

1. 研究者情報

ORCID : 研究者番号 : Researcher ID :

2. 著書等

- ・『○○○○○○○○○○』2017.4 ○○出版 総○○頁
 - ・(分担執筆) ***編『*****』第2章「*****」 pp.89-105 2015.9 **書店
 - ・(共著) □□□、□□□著『□□□□□□□□』第3章 pp.26-54 2006.8 □□大学出版部
- 以上○件 (うち著書 ○件、編著 ○件、訳書 ○件)

3. 修士論文・博士論文

- 【修士論文】「*****」2000.2 ○○大学○○研究科
- 【博士論文】「□□□□□□□□」2003.1 ○○大学○○研究科

4. 論文等

- ・(単著)(査読付)「○○○○○○○○」『○○○○誌』 ○○学会 pp.12-34 2016.4
 - ・(共著)(査読付)「*****」大久保太郎(筆頭)、戸山花子、本庄次郎 『*****誌』 **大学 **研究所 pp.123-145 2014.7
 - ・(単著)(SCOPUS掲載)「□□□□□□□□」『□□□□□□』 pp.13-21 2012.12 □□出版
- 以上○件 (うち査読付 ○件、SCOPUS掲載論文 ○件、Web of Science掲載論文 ○件)

5. 学会発表

- ・(国際学会)(招待講演)「***** (英語)」2016.5 第*回***学会
 - ・(国際学会)(査読付)「△△△△△△△△(独語)」2014.11 国際△△学会総会 △△学会報告 vol.12
 - ・(基調講演)「○○○○○○○○」2010.5 ○○大学○○研究会
 - ・「□□□□□□□□」2009.1 第□回□□□□学会
- 以上○件 (うち国際学会○件、招待講演○件、基調講演○件、査読付○件、共同発表○件)

6. 外部資金獲得状況(科研費、公的資金、民間団体研究費等、いずれも研究代表者に限る)

- ・JST さきがけ「○○○○○○○○」2015-2017年度 1,200万円
 - ・科研費: 基盤研究B「*****」2014-2016年度 600万円
 - ・△△株式会社受託研究「△△△△△△△△」2012年度 500万円
 - ・総務省委託事業「□□□□□□□□」2012年度 150万円
 - ・科研費: 若手研究「△△△△△△△△」2009-2010年度 300万円
- 以上○件 (うち科研費 ○件、公的資金 ○件、競争的資金 ○件)

7. 研究活動における受賞歴

- ・***学会論文章(○○部門) 受賞論文「*****」2013年

コメント [17]: 記入例は一例です。

コメント [18]: 直近のものを上に時系列で記入してください。3~6も同様です。

コメント [19]: 単著・共著・分担執筆の別を記入してください。

コメント [110]: 共著・分担執筆の場合、執筆担当ページを記入してください。

コメント [111]: 共著・査読付き・SCOPUS掲載・Web of Science掲載の場合は記入してください。

コメント [112]: 共著者名は論文に記載されている順にすべて記載し、自身の名前に一重下線を付してください。自身が筆頭著者の場合、(筆頭)と明記してください。

コメント [113]: 共著の場合、執筆担当ページを記入してください。

コメント [114]: 国際学会、招待講演、基調講演、査読付等の情報を記入してください。

コメント [115]: 日本語以外の場合は、タイトルのあとに(○語)と記入してください。

8. 特許・実用新案

9. 日本以外の国における研究歴

10. 海外機関との共同研究等の実績、その他研究活動上特記すべき事項

- ・ △△△△に関する研究について○○新聞にて特集記事掲載（2013年**月**日）

教育研究業績Ⅱ：教育活動

「記入要領」を参照のうえ、以下の項目順に記載してください。
 ※該当する実績がない項目は「該当なし」と記載してください。
 ※すべての項目が「該当なし」の場合でも、必ず提出してください。

コメント [116]: 記入例は一例です。

1. 教育活動における受賞歴、教育面での評価（ティーチングアワード等）

- ・2017年度〇〇大学ティーチングアワード学長賞（〇〇大学△△学部講義「〇〇〇〇論」）

2. これまで担当した主な科目

- ・△△△△△特論（〇〇大学〇〇学部、2014～2017）
- ・△△△△△演習（〇〇大学〇〇研究科、2012～2016）

3. 直近3年間の論文指導学生数

年度	修士論文		博士論文	
	主査	副査	主査	副査

4. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）、日本語以外の教育歴

- ・講義「国際●●論」においてオリジナル教材を作成。グループディスカッションを多く取り入れ、学生に考える習慣を教育。（△△大学△学部、2016～2017）
- ・●●学と▲▲科学を融合した教育を実施。●●学、▲▲科学、□□学、〇〇学いずれの基礎教育を受けてきた学生でも〇〇〇〇学が理解できるよう、それぞれの基礎知識から他の分野に広がる工夫をしている。（〇〇大学〇〇学部、2016）
- ・毎時間報告書を提出させ、学生の理解度を確認するとともに授業改善に役立てている。（〇〇大学〇〇学部、2014～2016）
- ・英語学位プログラムにおける「〇〇〇〇」の講義を担当。外国人留学生に対して英語での講義を提供した。（〇〇大学〇〇学部、2015～2016）
- ・〇〇の授業において、メディアで話題となっているテーマや有名企業の決算を解説することにより、当該分野の基礎のない学生に興味を持たせる工夫を行った。（□□大学□学部、2013）
- ・所属する〇〇内において、□□チーム向けのセミナーの企画・運営とともに、講師として解説等を行い、〇〇内の基準の解釈等の教育に携わった。（△△監査法人、2014）

5. 作成した教科書、教材、参考書

- ・〇〇講義における反転講義コンテンツ（日本語・英語）の開発（〇〇大学△△学部、2015）
- ・△△人材育成のためのPBL教材の作成（△△省、2008）

6. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等

- ・〇〇県教育委員会「〇〇〇〇〇〇〇〇人材育成の手法」（2015.9）
- ・△△研究会「△△△△△△△△教材の開発（英語）」（2013.6）

コメント [117]: 日本語以外での発表の場合、タイトルのあとに（〇〇語）と記入してください。

7. 教育方法に関するセミナー・研修等の受講歴

- ・〇〇大学 ファカルティ・ディベロップメント・セミナー (2017.9)

8. 日本以外の国における教育活動歴とその言語

- ・****大学 (フランス、パリ) で客員教授として、いずれもフランス語で「〇〇〇〇」の講義、および博士課程学生に対して研究上の指導を行った。(2014.10～2016.8)

9. その他教育活動上特記すべき事項

- ・〇〇株式会社 社内教育「LSI 設計技術講座」講師 (2014.10)
- ・〇〇学会 先端技術フォーラム講師「磁気ディスク装置の最新技術」 (2014.7)
- ・△△社「月刊****」の特集記事において、〇〇教育の手法について記事掲載 (2016 年**月**日)

教育研究業績Ⅲ：専攻分野に関する実務経験

「記入要領」を参照のうえ、以下の項目順に記載してください。

※本書式は主に実務者の方が記入されることを想定した書式です。

※該当する実績がない項目は「該当なし」と記載してください。

※すべての項目が「該当なし」の場合でも、必ず提出してください。

コメント [118]: 記入例は一例です。

1. 専門分野に関する実務経験

- ・〇〇弁護士事務所 弁護士（弁護士登録 2004.3、2004～2017）
（主な担当事件を記載）
- ・東京地方検察庁 検事（2000～2017）
（主な担当事件を記載）
- ・〇〇ボランティア協会 コーディネーター（2009～2016）
（具体的な活動内容を記載）
- ・金融庁〇〇課 専門官（2007～2015）
（具体的業務内容を記載）
- ・監査法人〇〇事務所 公認会計士（公認会計士登録 1992.8、1995～2005）
（具体的業務内容を記載）
- ・フリー・ジャーナリスト（1990～現在）
（具体的活動内容を記載）

2. 専門分野に関する実務経験上、特記すべき事項

- ・公認会計士試験 試験委員（H23 年度試験～H26 年度試験）
- ・日本公認会計士協会 各種委員
 - ・監査基準委員会（2006.8～2014.7）
 - ・監査・保障実務委員会（2006.8～2014.7）
 - ・会計制度委員会（2010.10～2013.7）
- ・司法修習生指導補佐官（東京地裁、2015.4～2017.3）
- ・文部科学省〇〇育成事業（2016.4～2017.3）
- ・総務省 行政イノベーション委員会 委員（2014.11～2015.6）
- ・科学研究費補助金 審査委員（2004.4～2006.3）
- ・〇〇新聞社 紙面審議会 委員（2000.4～2002.5）
- ・財団法人〇〇記念財団 理事（1999.4～2006.3）
- ・NPO 法人 〇〇〇〇 理事（2001.8～現在に至る）
- ・**テレビの番組「△△△△ニュース」に出演 〇〇分野の専門家として*****に関して解説（2016 年**月**日）

教育研究業績Ⅳ：所属学会、保有資格、その他

「記入要領」を参照のうえ、以下の項目順に記載してください。
※該当する実績がない項目は「該当なし」と記載してください。
※すべての項目が「該当なし」の場合でも、必ず提出してください。

コメント [119]: 記入例は一例です。

1. 所属学会・役職等

国際□□学会（2004.9～）

日本○○学会（2002.4～）

・編集委員（2005～2006）

・副会長（2012～2013）

日本△△学学会（1999.4～）

・第64回日本△△学会大会実行委員長（2009）

2. 保有資格等

3. その他